



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月13日

上場取引所 東 名

上場会社名 竹田 i Pホールディングス株式会社

コード番号 7875 URL <https://www.takedaip-hd.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 COO 兼 CFO (氏名) 細野 浩之

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 財務本部長 (氏名) 巻尾 忠臣 TEL 052-871-6351

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無：無

決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	25,089	△0.7	929	△11.0	1,093	△4.8	838	10.2
2025年3月期第3四半期	25,254	8.1	1,045	65.7	1,147	55.4	761	18.0

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 1,295百万円 (173.1%) 2025年3月期第3四半期 474百万円 (△55.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	100.50	-
2025年3月期第3四半期	91.63	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第3四半期	33,764	19,330	56.8	2,295.30
2025年3月期	31,488	18,345	57.8	2,186.42

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 19,193百万円 2025年3月期 18,205百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	-	10.00	-	27.00	37.00
2026年3月期	-	14.00	-		
2026年3月期 (予想)				23.00	37.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,500	0.9	1,450	5.4	1,550	4.8	1,000	△19.9	119.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期3Q	8,781,000株	2025年3月期	8,781,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	419,021株	2025年3月期	454,621株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期3Q	8,344,672株	2025年3月期3Q	8,308,566株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況.....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善などにより、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、今後の物価動向や米国の関税政策による景気の下振れリスクが懸念されるなど、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが事業活動を展開する国内の印刷市場では、ペーパーレス化や少子高齢化の進展による市場の縮小、競争の激化、価格の低迷という構図が長期にわたり継続し、大変厳しい状況が続いております。また、エネルギー価格や物流費、人件費の高騰のほか、断続的に実施される印刷用紙の値上げが広告宣伝媒体のデジタル化（紙離れ）を一層加速させ、カタログ、チラシなどの商業印刷物の減少に歯止めがかからない状況となっております。

その一方で、世界的な半導体分野に対する成長期待が高まっており、半導体関連マスクにおきましては、さらなる市場拡大による成長が期待されております。

このような状況において、当社は中長期に目指す姿を「社会の課題解決を総合的に支援するパートナー」として位置づけ、2024年度から2026年度までの3年間を対象期間とする中期経営計画「Takeda i P Create a Value Project」を推進し、PBR1倍超の早期実現など、さらなる企業価値の向上を目指しております。2年目となる2025年度は中期経営計画公表時における当初目標値を上方修正し、既存事業の収益力強化、事業ポートフォリオの変革、成長分野への積極投資、株主還元強化、攻めの経営を可能とするガバナンス体制への変革、海外事業の強化など、中期経営計画の実現に向けた挑戦を加速しております。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は250億89百万円（前年同期比0.7%減）となりました。このうち、海外売上高は25億34百万円（前年同期比0.9%増）となり、海外売上比率は10.1%（前年同期は9.9%）となりました。利益面では、営業利益9億29百万円（前年同期比11.0%減）、経常利益10億93百万円（前年同期比4.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億38百万円（前年同期比10.2%増）となりました。

セグメント別の状況は、以下のとおりです。

(情報コミュニケーション)

情報コミュニケーションでは、印刷物に限らない様々なソリューションを複合的且つ効果的に組み合わせたワンストップソリューションの提供により、顧客の課題解決を総合的に支援しております。その事業内容は、商業印刷を中心とする印刷事業、紙器・パッケージを世界へ供給するグローバルパッケージ事業、BPO（事務局、ロジスティクス）・DX・マーケティングを支援するロジスティクス（BPOサポート）事業、WEBサイト・システム・アプリなどの開発と運営を行うシステム関連事業、イベント受託・通販受託・物品製造販売・動画サイネージなどによるプロモーション支援事業で構成しております。これらの取り組みを強力に推進し、顧客にとっての価値（顧客価値）を創造し、その価値に見合った収益に結びつけることで業績向上に努めております。また、次世代を担う人材の採用と育成により、これまでの概念や思考に捉われない自由な発想で、新規顧客の開拓や新たな製品・サービスを提供し、印刷事業への依存度を低減する事業ポートフォリオ改革を進めております。

印刷事業では、他事業とのクロスセル、品質管理と情報セキュリティ管理を徹底し、紙媒体需要の取り込みを図りましたが、商業印刷物の減少が響き、苦戦を強いられました。グローバルパッケージ事業では、海外にて好調に推移し、TAKEDA PACKAGING (Thailand) CO., LTD. では昨年10月より工場の操業を開始しました。ロジスティクス（BPOサポート）事業では、受発注管理システムのプラットフォーム「T S - B A S E」の新規成約の獲得や既存顧客への追加機能の提供のほか、ロジスティクスや事務局代行などのBPO受託を取り込みました。プロモーション支援事業では各種制作物や自社通販及び顧客の通販代行、ノベルティなどの物品製造販売の需要を取り込みました。

上記の結果、情報コミュニケーションセグメントの売上高は118億96百万円（前年同期比1.0%減）、営業利益は2億22百万円（前年同期比38.3%減）となりました。

(ソリューションセールス)

ソリューションセールスでは、国内印刷市場の縮小により厳しい市場環境にありますが、印刷関連総合商社のリーディングカンパニーとして、日本全国に展開する拠点を活用し、顧客ニーズの発掘ときめ細かなフォローの徹底でシェア拡大を図っております。また、印刷業界に捉われない新商品の開発と新規顧客の開拓を進めております。

㈱光文堂では全国各地でのイベント出展による広告宣伝活動を行っており、10月には名古屋にて「第49回最新製本省力化機材展」を開催するなど、販売活動を強化しました。新商品の開発・販売では、オンデマンド段ボール加

工機「KBD AUTO SLOTTER」の販売を開始いたしました。

これらの取り組みにより、資材販売・機械販売ともに好調に推移しました。利益面では増収効果に加え、利益率の高い自社ブランド製品の販売増が寄与し、増益となりました。

上記の結果、ソリューションセールスセグメントの売上高は102億98百万円（前年同期比15.1%増）、営業利益は2億69百万円（前年同期比12.0%増）となりました。

（半導体関連マスク）

半導体関連マスクでは、竹田東京プロセスサービス(株)と(株)プロセス・ラボ・ミクロンの国内2社、そして中国と東南アジアに展開する海外3社が連携し、会社の垣根を越えた人事交流や情報共有による課題解決、新製品開発を組織的に取り組み、グループ全体最適とシナジーの最大化を目指しております。

世界半導体市場は緩やかな回復が続きましたが、中国経済の低迷や米国関税政策の不透明感、世界的なEV市場の低迷による影響により、本格回復には至りませんでした。

分野別では、自動車分野の出荷が低迷した一方で、AIサーバー関連が堅調に推移しました。国内では、(株)プロセス・ラボ・ミクロンにおいて実施した本社工場の建替え、本社工場及び九州工場における生産設備の更新などにより生産性向上が図られたため、中部テクノロジーセンターを閉鎖し、生産活動を移管するなど、固定費の削減を図りました。海外では、中国にて堅実に利益を確保しましたが、タイとベトナムでは減収減益となり、苦戦を強いられました。

上記の結果、半導体関連マスクセグメントの売上高は46億57百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は4億46百万円（前年同期比24.6%増）となりました。

（不動産賃貸）

当社グループが保有する土地・建物などの有効活用を目的として、連結子会社や外部顧客に対する不動産賃貸事業を行っております。当第3四半期連結累計期間の売上高は5億86百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は3億15百万円（前年同期比9.9%減）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の資産の部は、現金及び預金、電子記録債権などが減少いたしましたが、リース資産、投資有価証券などの増加により、前連結会計年度末に比べ22億76百万円増加し、337億64百万円となりました。

負債の部は、賞与引当金などが減少いたしましたが、1年内返済予定の長期借入金、リース債務などの増加により、前連結会計年度末に比べ12億90百万円増加し、144億33百万円となりました。

純資産の部は、為替換算調整勘定などが減少いたしましたが、利益剰余金、その他有価証券評価差額金などの増加により、前連結会計年度末に比べ9億85百万円増加し、193億30百万円となり、自己資本比率は56.8%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点での2026年3月期の業績予想は、2025年5月14日に公表いたしました通期の連結業績予想の数値から変更はありません。業績予想等につきましては、現時点における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,986	6,169
受取手形及び売掛金	4,905	5,124
電子記録債権	1,724	1,543
有価証券	—	599
商品及び製品	672	723
仕掛品	334	433
原材料及び貯蔵品	467	481
その他	579	685
貸倒引当金	△52	△53
流動資産合計	15,617	15,706
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,151	3,244
機械装置及び運搬具(純額)	900	906
土地	5,854	5,973
リース資産(純額)	682	1,381
建設仮勘定	798	1,268
その他(純額)	177	252
有形固定資産合計	11,565	13,026
無形固定資産	535	610
投資その他の資産		
投資有価証券	2,872	3,628
繰延税金資産	276	215
その他	808	764
貸倒引当金	△193	△187
投資その他の資産合計	3,764	4,420
固定資産合計	15,865	18,056
繰延資産	5	1
資産合計	31,488	33,764

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,491	2,702
電子記録債務	3,267	3,447
短期借入金	730	730
1年内返済予定の長期借入金	319	595
リース債務	252	335
未払法人税等	201	223
賞与引当金	558	273
その他の引当金	160	25
その他	1,280	1,362
流動負債合計	9,261	9,696
固定負債		
長期借入金	737	743
リース債務	556	1,155
長期未払金	80	145
退職給付に係る負債	1,847	1,817
資産除去債務	230	234
その他	429	640
固定負債合計	3,881	4,737
負債合計	13,143	14,433
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,937	1,937
資本剰余金	1,799	1,809
利益剰余金	13,057	13,554
自己株式	△332	△305
株主資本合計	16,463	16,996
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,136	1,729
為替換算調整勘定	386	283
退職給付に係る調整累計額	218	183
その他の包括利益累計額合計	1,741	2,196
非支配株主持分	140	137
純資産合計	18,345	19,330
負債純資産合計	31,488	33,764

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	25,254	25,089
売上原価	19,847	19,643
売上総利益	5,407	5,445
販売費及び一般管理費	4,361	4,516
営業利益	1,045	929
営業外収益		
受取配当金	80	91
貸倒引当金戻入額	4	5
為替差益	16	78
その他	30	27
営業外収益合計	131	202
営業外費用		
支払利息	18	29
投資事業組合運用損	5	2
その他	5	7
営業外費用合計	28	39
経常利益	1,147	1,093
特別利益		
固定資産売却益	1	90
投資有価証券売却益	43	63
特別利益合計	45	154
特別損失		
固定資産処分損	0	14
投資有価証券売却損	—	0
特別調査費用等	57	—
お別れの会関連費用	26	—
その他	2	0
特別損失合計	86	15
税金等調整前四半期純利益	1,106	1,232
法人税等	341	391
四半期純利益	765	840
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	761	838

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	765	840
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△335	592
為替換算調整勘定	69	△103
退職給付に係る調整額	△25	△34
その他の包括利益合計	△290	455
四半期包括利益	474	1,295
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	470	1,295
非支配株主に係る四半期包括利益	3	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	情報コミュニ ケーション	ソリューショ ンセールス	半導体関連 マスク	不動産賃貸			
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	11,994	8,668	4,531	59	25,254	—	25,254
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	22	280	—	522	826	△826	—
計	12,017	8,949	4,531	582	26,081	△826	25,254
セグメント利益	361	240	358	349	1,309	△264	1,045

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引の消去及び各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	情報コミュニ ケーション	ソリューショ ンセールス	半導体関連 マスク	不動産賃貸			
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	11,871	8,501	4,657	59	25,089	—	25,089
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	24	1,797	—	527	2,349	△2,349	—
計	11,896	10,298	4,657	586	27,439	△2,349	25,089
セグメント利益	222	269	446	315	1,253	△323	929

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引の消去及び各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、事業セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	660百万円	708百万円
のれんの償却額	2	—